

# 『この国どんな国？』



今回ご紹介する国は  
「オマーン」

各国の駐日大使館や関係機関を訪問して、  
様々な国の本当の姿をお届けします。

第2号 2008年2月5日



## オマーンの基本情報

オマーン王国は、アラビア半島の東南端に位置し、UAE、サウジアラビア、イエメンと国境を接しています。国土の総面積は30万9,500平方キロメートルで、日本の約4分の3ほどの大きさです。国土全体の約3%が平野部で、約15%が山岳部、残りの約82%は不毛の砂漠、土漠地域となっています。首都マスカット及び北部海岸地方の気候は、夏は高温多湿であり、雨は冬季に少量降るに過ぎません。4月から10月までが夏季で、特に5月から8月にかけては一日の最高気温が40度～50度以上、最低気温が30度以上という酷暑の季節になります。

1970年にカブース・ビン・サイード国王が即位するまで保守的な鎖国政策をとってきましたが、国王の即位と同時に積極的な開国政策を展開。政治、経済、外交などあらゆる改革を行いました。1976年からは石油資源を元にした経済再建にも着手し、国内情勢は現在に至るまで安定しています。

首都:	マスカット
面積:	30万9,500平方キロメートル
人口:	約248万人(2006年末)うち、オマーン人は180万人(75%)
人口増加率:	1.45%(2006年推計)
言語:	アラビア語。英語も通用する。
宗教:	イスラム教(イバード派が主流)
一人あたりGDP:	13,845USドル(2006年)
GDP成長率:	6.3%(2008年予想)

国章:



## 大使館情報

所在地: 東京都渋谷区千駄ヶ谷2丁目28-11

\* JR総武線千駄ヶ谷駅から徒歩10分ほどの、閑静な住宅街の一角にあります。

面会者:



今回お話を伺ったのは、ハメド アルアラウィ参事官です。我々の訪問時には大使が本国に帰任されており、新しい大使が着任されるまでの数ヶ月の間はアルアラウィ参事官が大使も兼任されているとのことでした。(2007年12月13日に訪問)

オマーン王国大使館  
ハメド アルアラウィ参事官

出所: IMF、オマーン王国大使館、在オマーン日本国大使館



本資料は、スパークス・アセット・マネジメントが情報提供のみを目的として作成したものであり、金融商品取引法に基づく開示書類ではありません。また特定の有価証券の取引を勧誘する目的で提供されるものではありません。スパークス・アセット・マネジメントとその関連会社は、本資料に含まれた数値、情報、意見、その他の記述の正確性、完全性、妥当性等を保証するものではなく、当該数値、情報、意見、その他の記述を使用した、またはこれらに依拠したことに基づく損害、損失または結果についてもなんら補償するものではありません。ここに記載された内容は、資料作成時点のものであり、今後予告することなしに変更されることもあります。また、過去の実績に関する数値等は、将来の結果をお約束するものではありません。この資料の著作権はスパークス・アセット・マネジメントに属し、その目的を問わず書面による承諾を得ることなく引用または複製することを禁じます。



# 『この国どんな国？』

各国の駐日大使館や関係機関を訪問して、  
様々な国の本当の姿をお届けします。



今回ご紹介する国は  
「オマーン」

## オマーン経済を支える主要産業

オマーン政府は、第6次5ヵ年計画の策定、WTO加盟(2000年10月)を契機に国内経済のグローバル化、民営化を促進し、石油・ガスの収入を足掛かりとして製造業の拡大をはじめ、石油以外の新たな産業を発展させることを目指してきました。

### 1. 石油関連業

オマーンでは国家予算の70%が石油産業、11%が天然ガス産業からの収入で、石油・ガス産業は必要不可欠の産業となっています。一日約74万バレルの石油を生産、多くが中国、タイ、日本、韓国などに輸出されています。また現在約56億バレルの原油埋蔵量が確認されていますが、なおも巨額の投資で油田の開発が進められています。天然ガス産業は第6次5ヵ年計画が実行された2001年から2005年までの間に、予想成長率16.6%を大きく上回る、年率約21.6%もの成長を遂げました。天然ガス産業のGDPへの貢献率は、2010年までに約9.2%に達すると予想されています。



原油確認埋蔵量56億バレル(2006年)、可採年数20.5年、  
石油生産量74.3万バレル/日(2006年BP統計)  
天然ガス確認埋蔵量0.98兆立方メートル、可採年数39.0年、  
天然ガス生産量240億立方メートル(2006年BP統計)

### 2. 農漁業

農業、漁業はオマーン経済にとって最も古く、かつ重要な産業の一つです。オマーンの人々に貴重な食糧を供給すると同時に、多くの雇用機会を創出、GDPにも貢献しています。主要な農産物はナツメヤシ、マンゴー、ライム、ココナッツ等です。

また、1,700キロにも及ぶ海岸線を持つオマーンでは漁業も盛んで、湾岸地域で有数の漁業国となっており、漁師は最も歴史ある職業の一つです。最新の設備を兼ね備えた漁港、漁師のトレーニングセンターなども建設されており、今後もさらなる発展が期待されます。



### 3. 銅鉱業

オマーンでは鉱業も非常に盛んで、クロム鉄鉱、苦灰石、亜鉛、石灰岩、石膏、シリカ、銅、金、コバルト、鉄などを産出しています。特に銅はオマーンで数千年前から採掘されており、それに関連したいくつかの周辺産業も発展してきました。また、最近の調査でシリカをはじめ、これら天然資源の豊富な埋蔵量が確認されており、今後もオマーンにとって重要な産業であり続けると考えられます。



出所:オマーン王国情報省、オマーン王国大使館



本資料は、スパークス・アセット・マネジメントが情報提供のみを目的として作成したものであり、金融商品取引法に基づく開示書類ではありません。また特定の有価証券の取引を勧誘する目的で提供されるものではありません。スパークス・アセット・マネジメントとその関連会社は、本資料に含まれた数値、情報、意見、その他の記述の正確性、完全性、妥当性等を保証するものではなく、当該数値、情報、意見、その他の記述を使用した、またはこれらに依拠したことに基づく損害、損失または結果についてもなんら補償するものではありません。ここに記載された内容は、資料作成時点のものであり、今後予告することなしに変更されることもあります。また、過去の実績に関する数値等は、将来の結果をお約束するものではありません。この資料の著作権はスパークス・アセット・マネジメントに属し、その目的を問わず書面による承諾を得ることなく引用または複製することを禁じます。



# 『この国どんな国？』

各国の駐日大使館や関係機関を訪問して、  
様々な国の本当の姿をお届けします。



今回ご紹介する国は  
「オマーン」

## 第7次5カ年計画(2006-2010)

オマーン政府は、1976年から5年ごとの経済開発計画である5カ年計画を実行中であり、  
現在2010年に向けて第7次5カ年計画を実行しています。  
第7次5カ年計画の概要は以下のとおりです。

- GDP成長率3%の維持、国民の生活水準の向上及びインフレの抑制
- 観光などの非石油産業を育成し、経済の多角化を推進
- 人材育成、教育水準の向上、雇用拡大
- IT産業の育成、各種調査機関の拡充。
- さまざまな開発プロジェクトの推進。

### Port Sohar (ソハール港) 開発

ソハール港開発は現在オマーンにおける最重要開発プロジェクトであり、総面積約20平方キロメートル、これまでに投資された費用約130億ドルという、世界最大級の港開発プロジェクトです。

ソハール港には、国の金属・鉱業、石油化学産業、物流産業を集積し、約8,000人(間接的には約30,000人)の雇用を産み出します。また経済が急速に発展する湾岸諸国やインド、アフリカにも近いことから、輸送・物流のハブ拠点となることが期待されています。



出所:オマーン王国情報省、Port Sohar公式ホームページ、  
オマーン王国大使館



本資料は、スパークス・アセット・マネジメントが情報提供のみを目的として作成したものであり、金融商品取引法に基づく開示書類ではありません。また特定の有価証券の取引を勧誘する目的で提供されるものではありません。スパークス・アセット・マネジメントとその関連会社は、本資料に含まれた数値、情報、意見、その他の記述の正確性、完全性、妥当性等を保証するものではなく、当該数値、情報、意見、その他の記述を使用した、またはこれらに依拠したことに基づく損害、損失または結果についてもなんら補償するものではありません。ここに記載された内容は、資料作成時点のものであり、今後予告することなしに変更されることもあります。また、過去の実績に関する数値等は、将来の結果をお約束するものではありません。この資料の著作権はスパークス・アセット・マネジメントに属し、その目的を問わず書面による承諾を得ることなく引用または複製することを禁じます。



# 『この国どんな国？』

各国の駐日大使館や関係機関を訪問して、  
様々な国の本当の姿をお届けします。



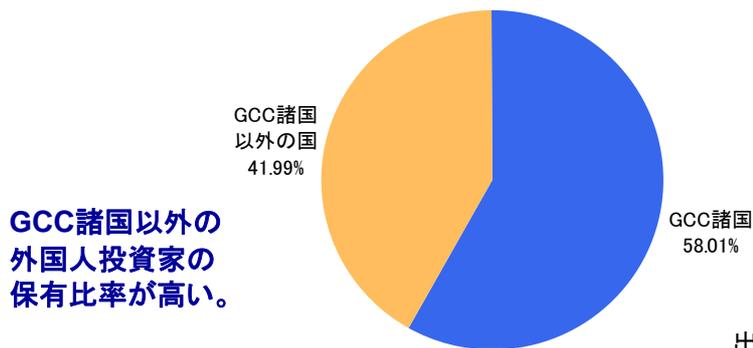
今回ご紹介する国は  
「オマーン」

## オマーンの株式市場

オマーンの株式市場は外国人投資家を誘致するために以下の優遇策を実施しています。

1. キャピタルゲインに対する非課税
2. 資本や利益の移動に対する規制なし
3. 両替に対する規制なし
4. オマーンリアルを固定レートでUS\$に両替可能
5. 法人税の優遇
6. 外国人投資家も事前の許可なしで上場企業株式や投資ファンドへの投資が可能
7. 投資家保護のためのマスカット証券取引所を監視する独立した管理機関の設置

オマーン・マスカット証券取引所における国別保有比率  
(2006年末、自国民を除く)



出所: オマーンアラブ銀行

### 訪問を終えて

政府主導の5カ年計画により長期的な視点で経済開発が進められており、今後も安定した経済成長が続くと考えられます。

また、ソハール港の開発により、地域の物流拠点として周辺諸国の経済発展の恩恵を受けることも期待できます。

株式市場においては、各種優遇策により外国人投資家を積極的に誘致しようとしており、その結果外国人投資家の株式保有比率は他のGCC

諸国に比べて高く、今後の発展が期待されます。(これらは全て2007年12月13日現在の情報です)



取材・編集: スパークス・アセット・マネジメント(株) 事業開発部 投信グループ



本資料は、スパークス・アセット・マネジメントが情報提供のみを目的として作成したものであり、金融商品取引法に基づく開示書類ではありません。また特定の有価証券の取引を勧誘する目的で提供されるものではありません。スパークス・アセット・マネジメントとその関連会社は、本資料に含まれた数値、情報、意見、その他の記述の正確性、完全性、妥当性等を保証するものではなく、当該数値、情報、意見、その他の記述を使用した、またはこれらに依拠したことに基づく損害、損失または結果についてもなんら補償するものではありません。ここに記載された内容は、資料作成時点のものであり、今後予告することなしに変更されることもあります。また、過去の実績に関する数値等は、将来の結果をお約束するものではありません。この資料の著作権はスパークス・アセット・マネジメントに属し、その目的を問わず書面による承諾を得ることなく引用または複製することを禁じます。